氏　　名	秋　田　光　洋
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博甲第　5077　号
学位授与の日付	平成２７年　３月２５日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 （学位規則第４条第１項該当）
学位論文題目	Is Presence or History of Extracolonic Primary Malignancy a Risk for Colorectal Neoplasia? An Analysis of Patients Who Underwent Colonoscopy （他臓器癌の現病歴あるいは既往歴が大腸腫瘍の危険因子となるか？大腸内視鏡検査を行った患者を対象にした解析結果）
論文審査委員	教授　土居弘幸　教授　荻野景規　教授　八木孝仁

学位論文内容の要旨

要旨：他臓器癌が大腸腫瘍のリスクになるかは知られていない。初回大腸内視鏡を施行した 26,452 例のデータベースを使用し、他臓器癌の併存または既往（以下、他臓器癌）の有無で大腸腫瘍のリスクが異なるかを検討した。本検討症例の中で他臓器癌を認めたものは 3,026（11%）であった。また、大腸腫瘍は、39%の症例で認めた。大腸腫瘍のリスクは、他臓器癌症例の方が他臓器癌を持たない症例より高かった（42% vs. 39%（p=0.0012））。さらに、交絡因子である年齢、性別、内視鏡施行の理由で調整し、他臓器癌症例についての大腸腫瘍のリスクを検討したところ、オッズ比 1.0 以下となった。また、個々の癌種検討では、特に胃癌症例は有意差を持って大腸癌のリスクが低かった（OR: 0.8; 95%CI: 0.67-0.99）。一方、食道癌症例は大腸腫瘍のリスクを増加させた（OR: 1.66; 95% CI: 1.20-2.29）。他臓器癌症例には、大腸腫瘍リスク上昇は認められなかった。

論文審査結果の要旨

本研究は、岡大病院及び岡大関連病院で登録された 10 万人余の大腸内視鏡検査データを活用したものである。他臓器がんの併存または既往の有無により大腸がん発症にどのようなリスクがあるかを検証したものである。先行研究では、他臓器がんによる大腸がんのリスクにはついては報告されていない。

本研究では、胃がんでは大腸がんの罹患リスクが低く、食道がんでは、逆に高まることを明らかにした。統計分析の記載や用語の使用については、今後も研鑽を積む必要があることが指摘されたが、臨床研究への意欲が顕著であり、視点もユニークであることは評価できる。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。